

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	サウンドシステム4	
科目基礎情報							
開設学科	音響芸術科		コース名	全専攻		開設期	後期
対象年次	2 年次		科目区分	選択		時間数	3 0 時間
単位数	2 単位		授業形態	講義			
教科書/教材	授業内で資料プリントを配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	山崎進			実務経験の有無・職種	有・レコーディング&マスターリングエンジニア、音楽		
学習目的							
1 年次の音響の基礎をベースに音響システム関連の知識を広げて行く事が目的。近年のレコーディングはコンピュータによるDAW化によって手軽なものとなり、簡単な操作をすれば何かしらの音の変化を起こすことが可能になった。しかし、闇雲に音をいじる事は完成時に取り返しの付かない効果を招くこともある。目的とする音作りの到達は、音の現象を正しく理解し、効率的にパラメーターをいじることによって速度アップが可能となる。そのための音響基礎の理解を目的とする。							
到達目標							
電気の基礎的理解を元に交流である音の理解を広げていく。またアナログ機器とデジタル機器を平行して学習していくことにより、音の処理を基本的な部分から理解し、音の変化の仕組みもイメージ出来るようにする。音に関する単位や様々な基本的な数値についてもしっかりと記憶することで、プロフェッショナル・エンジニアとしての知識を豊富にしていく。近年のデジタル化により音の記憶フォーマットも増えている。これからの新しい技術に対応していくためにもアナログ的な基本技術も理解していくことを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	プリント資料を随時配付し、自分で完成させるワークタイプの物も配布する。また各自で音響関連の用語集を持参する事が望ましい。講義形式の授業である。前回までの各項目を理解した上で次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。						
注意点	この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は実習関連の試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験・課題	40%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト						
	レポート						
	成果発表 （口頭・実技）	20%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	40%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回） 1回（ 2 ）時間 ※45分を1時間とする							
回	授業内容		各回の到達目標				
1 回	モニターについて		モニター、モニターコントローラーの仕組み、ヘッドホンとスピーカーについてわかる。				
2 回	5. 1サラウンド		サラウンドシステムの概要ついてわかる。				
3 回	映画館のサウンド		Dolby,DTS,THXの特徴と違いがわかる。				
4 回	劇伴収録		映像とレコーディングスタジオの関係がわかる。				
5 回	音響補正		ピッチ修正とタイミング修正ができる。				
6 回	様々な楽器収録		ポピュラーから珍しい楽器の収録ができる。				
7 回	ライブレコーディングシステム		ライブレコーディングとスタジオレコーディングの違いがわかる。				
8 回	マルチトラックの技術		アナログ時代のテクニック、ノイズ対策、ピンポンができる。				
9 回	DTM		DTMの誕生からProToolsの流れがわかる。				
1 0 回	マスタリング		アナログ時代～現代のマスタリングがわかる。				
1 1 回	エフェクター応用1		イコライザーとコンプレッサー、リバーブとディレイが使えるようになる。				
1 2 回	サラウンド・エフェクター基礎		サラウンドで使用する主な機材がわかる。				
1 3 回	サラウンド・エフェクター応用		サラウンドで使用する主な機材のエフェクターが使えるようになる。				
1 4 回	Voice		人の声の録音と加工の応用、実践例がわかる。				
1 5 回	後期まとめ		全体の確認と復習				